

2019年11月10日

## 福音書からのメッセージ

神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神なのだ。すべての人は、神によって生きているからである。

(ルカによる福音書 20 章 38 節)

今日はオリーブまつりです。たくさんの方々が礼拝に来て下さいました。今回のオリーブまつりは第14回です。隔年で文化的催しとバザーをおこなってきました。しかし今年、わたしたちはあえて「バザー」という言葉を使わないようにしてきました。それは今までのバザーのイメージとは違うことをしようとしているからです。

今年はいろいろな働きをしている団体の方にブースをお貸しして、一緒に販売などをしていただいております。なぜ、このような試みをしようとしたのか。バザーで売れる品物が集まりにくくなったから、働き手の平均年齢があがってしまいしんどくなったから。そのような理由もあるでしょう。でもそのようなマイナスの理由より、プラスの理由をみなさんと共有したいと思うのです。

それは、多くの交わりの中で、わたしたち一人一人が神さまに生かされ、そして共に歩んでいるということを知ることができるということです。そのような方々と顔を合わせ、お話しをし、同じ時間を共にする。そこに何が生まれるのか。そこには何が働いているのかをご一緒に感じていきたいのです。

今日ご参加いただく方々は、本当に様々な活動をされています。その働きに共通していることがあるとしたら、それはだれか今、困っている人や悲しんでいる人、苦しんでいる人と一緒に歩いているということでしょう。一緒に笑い、一緒に泣き、一緒に傷み、一緒に喜ぶ。そんな活動をされているのではないかと思います。



2000年前、イエス様はわたしたちの間に来られました。神さまはわたしたちの間に、独り子であるイエス様をお遣わしになったのです。神さまは上

の方からわたしたちを見降ろして、頑張れ、頑張れと言うだけではありません。そんなこと言われても、頑張れないこともある。こういうことができたら、幸せになりますよ、天国に行けますよと言われても困る。なぜならわたしたちは、完璧な人間ではないからです。

わたしたちには弱さもあれば、欠けていることもある。どうしようもなく、隠しておきたいところだってあります。でも安心してください。神さまは、そんな真っ黒いわたしたちを、それでも愛してくださっているのです。

わたしたちの弱さの中に、イエス様は来て下さる。よごれたままのわたしたちを、そのまま受け入れてくださいます。上から見ていただけではなく、共に喜び、共に泣き、そして共に歩んでくださるのです。

神さまは決して死んだ者の神さまではありません。生きている者、わたしたちの間に愛を運んでくださる神さまなのです。そのことを、心の底から感じ、神さまに感謝したいと思います。

今日の交わりの中で、ご一緒に神さまの愛を感じていきましょう。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>